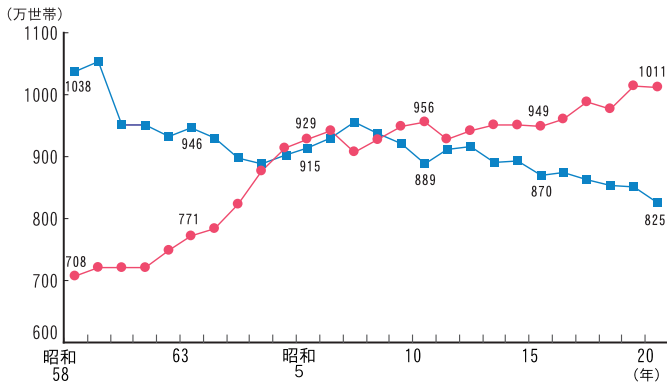


働く男女に関するデータ

働く家庭の現状

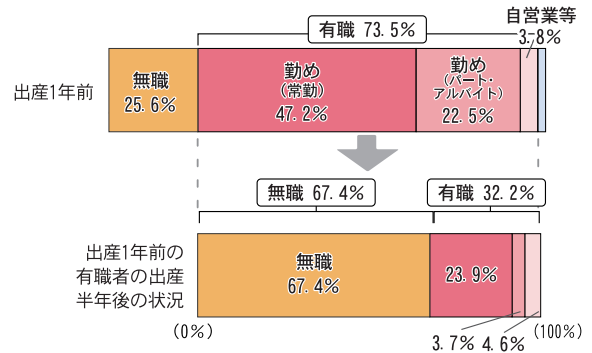
共働き世帯数の推移

■ 男性雇用者と無職の妻からなる世帯
● 雇用者の共働き世帯



出産前後の女性の就業状況の変化

資料出所:厚生労働省「第1回21世紀出生時縦断調査」(平成13年度)



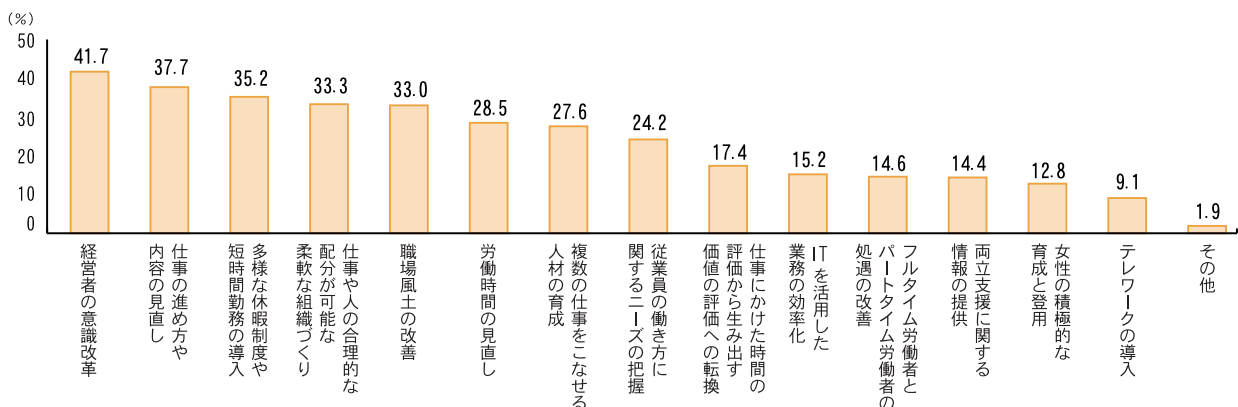
世帯の働き方については、共働き世帯が年々増加してきており、平成8年からは共働きの世帯数が男性雇用者と無職の妻からなる世帯の数を上回り続け、その差は徐々に広がってきています。

このような状況のなかで、女性の就業環境の整備は進んできつつありますが、制度が整備されていても利用しづらい雰囲気等により、働く女性の7割が出産、育児を機に退職しています。結婚や出産により女性が仕事を辞めることなく働き続けることができるよう、仕事と子育ての両立を支援する取り組みが今後さらに必要となるとともに、夫婦で共に子育てに取り組むことができるよう、男性の育児参加を促進することが必要となります。

従業員が企業に両立支援として望むこと

「ワーク・ライフ・バランス」推進のために企業に望むこと

資料出所:福岡県「男女共同参画就業実態調査」(平成19年度)



両立支援のために従業員が企業に望んでいるものとしては、「経営者の意識改革」がもっとも多く、また、「職場風土の改革」や「労働時間の見直し」など、働く職場環境の整備についての要望が高くなっています。

また、それ以外にも「多様な休暇制度や短時間勤務制度の導入」など、子育てに必要な時間に柔軟に対応できるような制度の整備も求められています。